

令和4年度 稲沢市地域自立支援協議会 第3回地域生活支援部会 議事要旨

[日 時] 令和4年11月17日(木) 午後2時～午後3時45分

[場 所] 稲沢市役所 第2分庁舎 2階 第3会議室

[出席者] 地域生活支援部会委員7人、事務局3人

[欠席者] 地域生活支援部会委員3人

あいさつ(部会長)

[議 事]

1 協議事項

(1) 作業部会の進捗について

- ・医療的ケア児支援ネットワーク会議報告(10月26日)代表委員から報告

部会長 運営会議や本会議で報告する中で、ネットワーク会議の内容が、個別支援から波及していていることが稲沢市の強みであると、お褒めの言葉をいただいている。相談フローについてはネットワーク会議での意見を反映している。今日の部会でもご意見をいただき、最終決定としていきたい。フローの流れは子どもの将来について母が分かるように、学校や保育園に相談に来ていただく目安になるように作成した。あとは医師の参加については、引き続き検討していく。

委員A これを作成し始めたときは、医ケア児はまず3歳からかなと思いき、年少からと記載したが、今、たまたま転入される方があり、母が就労したい希望があり、お子さんは0歳で来年1歳児になる。確実に保育園に入っただけの話ではなく、看護師の予算も正式についていないので、前向きに検討しますと伝えている。正式に受けるとなると2歳児になる。近隣や国を調べているが、整理し始めたばかりなので、地域で対応がバラバラで、乳児からたくさん入るところもあれば、隣の一宮市は幼児からと聞いた。酸素が必要なお子さんで、看護師が酸素を持って対応している。他市ではもう少しケアを絞っている所もある。年齢で区切るか、ケア内容で区切るのか、と思いつつ考えている。ガイドラインも必要なので作成し始めている。ガイドラインをもとに入っただけ。障害児だと判定委員会がある。この医ケアのお子さんはどういう場で判定していただくか。障害児ではないので分けた方がいいが、一宮市は障害児の会議の後に医ケアの判定委員会をしていて、津島市は判定委員会の中に含めている。相談していきたい。現場の職員も、できるならみてあげたいという声がある。前向きに検討したい。予算と人が確保できるか。なんとなくお願いできそうな方は確保しているが、そもそも障害児保育は基準があり、年少で未歩行ではないという基準をクリアしないと入れない。医ケアのお子さんだけでなく、未歩行のお子さんも、自立歩行は何歩からかなど、あいまいな中で受けている現状があり、そういうところの整理も、見直ししないといけない時期にきている。国の補助金も今ならつく。該当者がいないとつかないが、該当の方がいるので、

歩行もできるので何とかと思っている。

部会長 受け手としては早いうちに相談していただいて、というフロー図。

委員 A 色々意見も出しているの見やすくなったと思う。

委員 B 色がカラフルになり良かった。先日名古屋の特別支援学校に見学に行った。生活介護事業所をやっていて医ケアの方の受け入れについて今相談を受けている。

委員 C フロー図は分かり易いと思う。医ケアの子以外の障害児でも、この子の将来が心配という親御さんがいて、入園や入学ができるか、就職や結婚ができるか、生まれた時から心配されている。これを見ると学校の相談をするのは年少児で見やすい。今までだとまだ相談は早いと言われかねなかった。それで終わっていたので視覚的にわかるようになる。赤ちゃんのイラストも数年前まではなかった。利用者や家族がこれを見て質問があったときに、少しずつ変えていくと良いのではないか。より良いものになっていくのではと思う。

部会長 御意見があったときにネットワーク会議で報告していただいて、改良を重ねていくということをしていきたい。

委員 D たたき台のころと比べるとすごく分かり易くなった。医ケアコーディネーターが目に入るようになった。コーディネーターに繋がるという事が書かれているので良いと思う。気になるのは、いなッピーから沢山の相談先があるのは分かるが、あるからどうなのか。どうしたいのか。この言葉がひっかかった。相談先があるね、まず相談しようね、なのか。沢山あるから分からないならコーディネーターへとなるのか。

委員 E 配布はどうか、どういう方が手にするか。

事務局 配布先については、これからになる。次のネットワーク会議で検討したい。2月の会議になる。まず保護者が最初に受け取るとすれば、退院時カンファレンスが最初かなと思っているくらい。関係機関にも配布して皆で活用してブラッシュアップしていけたらいい。明確には決まっていない。会議でもまだ、意見をいただいている。

・地域生活支援拠点等事業に関する作業部会（11月10日）代表委員から報告

部会長 運営会議、本会議からの意見については、医ケアネットワークと同様に全国に発信してほしいと言われた。形だけ作る地域が多い中で、作業部会を持ち、連絡会も巻き込んでいる。変わったことはしていないが、評価された。今回は、これから検証、評価が毎年必要になる。評価シートに当てはめて今の状況を考えていく。拠点は何かというところで、障害者や家族の高齢化、重度化に備えること。5つの機能がある。体験の機会についても検討してきた。稲沢市がどれくらいできているかを評価した。たたき台を事務局が作り、辛めの評価をしている。作業部会の後に何か意見はあったか。

事務局 ありません。

部会長 今日いきなりお目通しいただきご意見は部会ではきついかもしれないがこれからの課題が良く見えてきたと思う。丁寧に取り組みをしていけると思う。

委員 F 課題が洗い出された点は良かったと思う。2, 3, 4の項目も全体的に評価が低いのでこの点を重点的にやっていくことになるかなと思う。一気に高い評価は難しいので、少しずつ、2をなくして次は3, 4という感じでやっていけると良い。目標設定していけると良い。登録事業所で居宅介護がないのが、自宅で過ごしたい人がいるので、登録があると良い。あと、登録事業所のリストが作成されて、相談事業などが把握しておけると良い。どういう条件なら受け入れできるという事も書いてあると良い。事前に何回か利用して下さいとか、そういう一覧があり、相談員が持っている并利用しやすいと思う。登録していない事業所にも見せると、やり方が伝わる。相談支援も安心できる。

部会長 次回の会議で是非発言してほしい。評価については通知表のようだが、前回の会議では、やみくもに増やすより目標値を設定してはどうかという意見があった。報告の中であったように、次年度は登録が半数になるように目指していこうということになった。

委員 A 具体的なところが分かると次に取り組むことが分ってくるので良い。保育園も同じで自己評価をしている。昔はとにかく5を目指して疲弊していた。普通で良いから、まずそこを目指すというところをやっていくことで、目指すことが分かってくる。すぐにできること、なかなか難しいこともある。考察や分析をしていくと、こうすれば上げられるということが分かると思う。とても良いと思う。

・障害児支援に関する作業部会（10月18日）代表委員から報告

部会長 大きいことはサポートブックの活用で書き方支援としてYouTubeで流していくということ。それに加えてふれあい通信も3月前半の放送で枠が取ってあるので、部会としてやっていく。今後段取りがある。YouTubeは急ピッチで進めて12月の会議で確認する。ふれあい通信は1月に打ち合わせをして2月に撮影があるということになっている。

事務局 ふれあい通信については秘書広報課から案内があったら部会長に連絡をする。YouTube内容については動画ができ次第、内容を見ていただくことにする。

部会長 また、今日の部会では、児童発達支援センターについての御意見をいただきたい。前回の障害児支援部会では時間がなかったので、できるだけ意見をいただきたい。児童発達支援センターは地域の中核となるセンター。児童発達支援事業所と相談支援事業所が一緒になっている。

委員 D うちの会に出ていた意見がほとんど書いてある。連携について18歳以上の子について意見が挙がっている。だんだん年齢を重ね、高校までは何とかなっている

が、学校から帰ってきてもそれまでは放課後等デイがあったが、高校卒業すると仕事の後に何もやることがないなど問題が出てきている。18歳になってからの方が、母の仕事ができなくなる問題がある。そういう支援も欲しい、という意見がある。望み通りのものができたらどんなに良いかと思う。人員について、療法士さんとかは常勤がいいという希望。更に、中身のあることが大事なのかなと思う。心理師ですと言われても経験が浅いと求めているレベルにないと困る。常勤ならいいということではない。母の方がすごく勉強されているのでそれを越えてくれないと。できるだけ良いかたにきてほしい。

部会長 国では、今は福祉型がほとんどだが医療型と一元化という話もある。具体的なことは分からないが、そういう中で専門職がどこまで取り組んでいくのか先が見えないので苦しい時期かなと思う。

委員 A ずいぶん前から児童発達支援センターについて聞いている。結局この地域は医療が薄い。見てもらう医療機関や、訓練の場所が少ない。母は訓練の場所を求める。センターは医療機関ではないのでどこまでできるか。どういうものを作るのか調整しないと難しい。青い鳥医療療育センターなどの機能が近くにあると一緒にやれると思うが、そこがない中でどうやれるか。他市では名前だけのところもあるが、どこまで強化していけるか難しい。その説明をどうしていくのか。要望はよく分かるが、センターとして何をやっていくのか決めないといけない。保護者が思うものができないならどう説明するか。あとは人員をどう集めるか。

部会長 方向性については、インクルージョンの中で医ケア児とか児童発達センターができて分けることがどうなのか、ということもあるので難しい。

委員 A 保育現場も今までは定型発達に近づくように支援してきた。でも、この子はこの子で皆の中でのいることが心地よい、という支援になってきている。力を伸ばすというより、子ども同士のつながりを大事にしていくことが言われてきている。重度のお子さんにはもちろんこういうところが必要だと思うが、説明していくことが必要になると思う。取り出して療育というより、地域に入っただき、上手くやれているか、ということに力を入れていくのが良い。

委員 C 上手く行かなくなった時にアドバイスしていただくとか、生活している所での支援に持っていくことが、取り出して支援するより良い。重いお子さんに絞っても良いのかなと思う。要望はたくさんあるが、このとおりになったらすごい施設。家庭療育に繋がるような支援にしてほしい。今までは、施設ではやれるけど、卒業したらやれない、家ではやれないとか、環境が整わないとできないということがあった。先を見ていくと、普段の生活の場でできることを増やしていくことが大事なのかなと思う。銭湯で以前関わりがあった障害があるかたに会ったが、施設だとやれていたことが、今やれていない。療育を受けていた時には出来ていたのにと。普通の生活に直結するような支援が必要だと思う。こういう施設を作つてという

ことより、なければこれで代用するというような感じだと、家で応用が利くかなと思う。これじゃないとダメというこだわりを崩すことも必要。他のこともそうだが、設備を整えることより不便な中で応用ができるようにしていく必要があると思う。

委員 B 日頃靴を履けない子がいるが、待つ時間が大事。待てばできる。母は待てないので家ではできない。母にこんなこともできるよと伝えていく。絶対できるようになる。待つ時間も大切にしていきたい。虐待についても気になるので窓口があると良い。

部会長 子どもの虐待については中央子育てセンターが窓口になっている。

委員 G うちの施設も新しく建て替えた。でも使い勝手が悪いこともあったので、後から直してほしくてもできないので、きちんと確認しておくのが良い。

委員 F 現実的になればすごいと思うが、人の問題もある。近隣市町でできているところもあると思うので見て参考にしていきたい。

事務局 子育て支援課にも伝えて部会の意見としたい。

(2) 災害時の対応等に関する課題について

事務局 障害者計画に関するアンケート結果について報告。

部会長 ご意見については次回の部会でよろしくをお願いします。

3 その他

なし